

当社による米国NN社 PBC (Precision Ball Components) 事業の買収について

2017年7月10日

株式会社ツバキ・ナカシマ

(東証一部 6464)

目次



1. 中期経営戦略における本件の位置付け	P2
2. PBC事業の概要	P5
3. 当社における本件の意義	P9
4. 本件の概要と財務影響	P14

「一球一心」



一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。

「一精一誠」



誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。



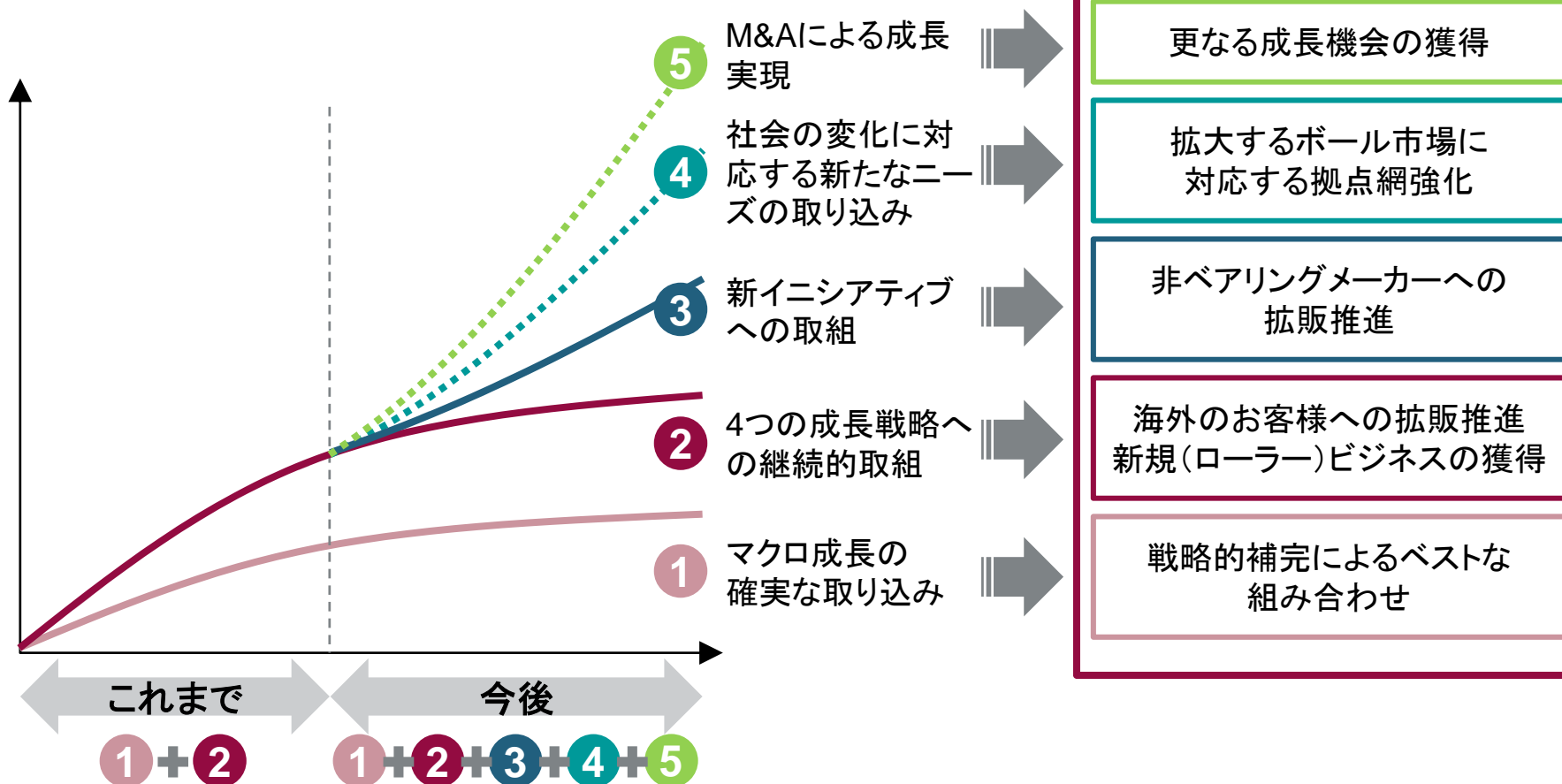
1. 中期経営戦略における本件の位置付け



中期経営戦略における本件買収の位置付け(定性面)

本件は、当社が中期経営戦略で目指す各取組の実現を強力にサポートします

中期経営戦略における成長の実現イメージ (2016年10月27日公表)

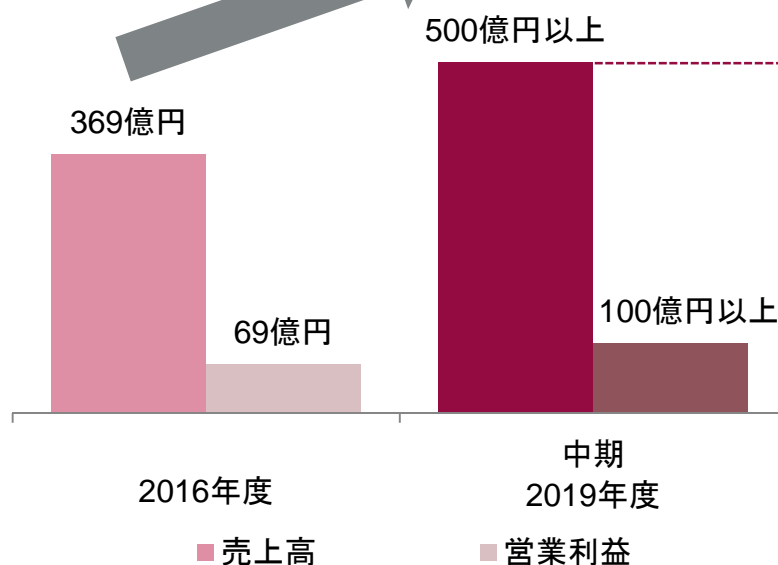




中期経営戦略における本件買収の位置付け(定量面)

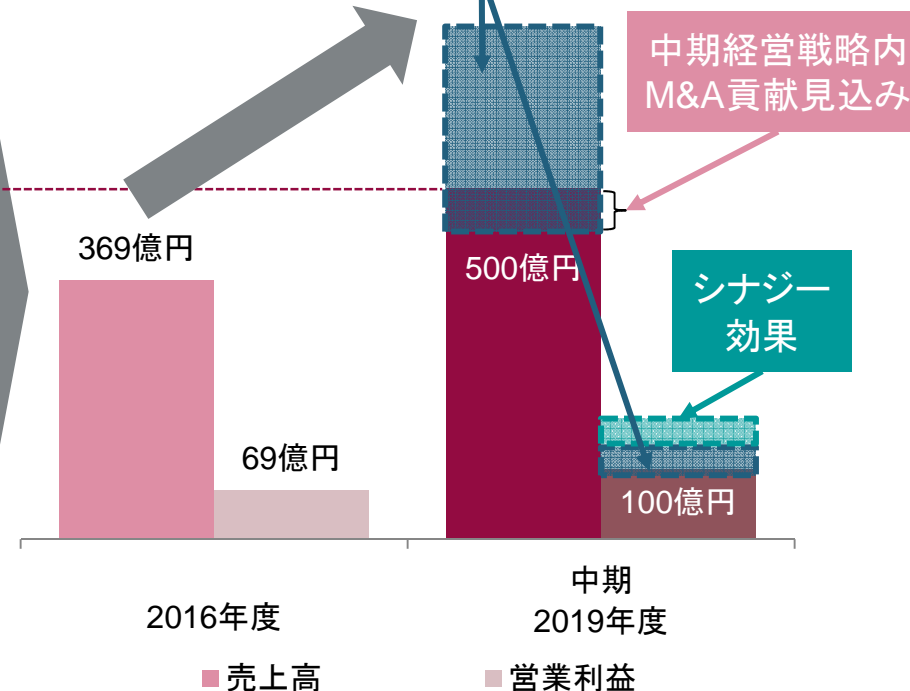
本件により、2019年度目標売上高500億円、営業利益100億円の早期達成を見込まれます

中期経営戦略(公表時)



本件買収完了後イメージ

PBC事業単体による貢献
〔ご参考(※1) 2016年12月期
売上高:271億円、営業利益:25億円〕



(※1) NN社年次報告(10-K、USGAAP)記載数値を当社決算レート(1\$=108.84円)にて換算



2. PBC事業の概要



PBC事業の概要

本件は、PBC (Precision Bearing Components) 事業が買収対象になります

PBC事業

Precision Bearing Components事業

- 主にベアリング産業向けにボール、ローラー及びリテーナーの製造・販売
- グローバルに7拠点を有する
- 人員: 約1,260名 (2016年12月末現在)
- 売上高: 249百万ドル (※1)、営業利益: 23百万ドル (※1)、EBITDA: 35百万ドル (※1,2) (2016年度)



ボール



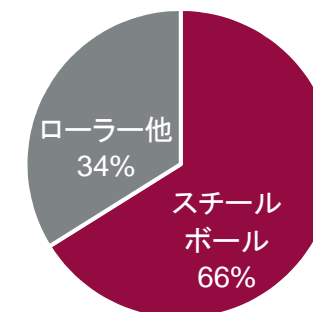
ローラー



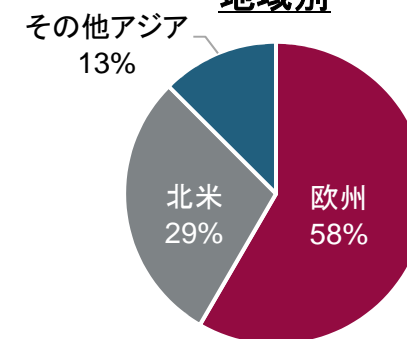
リテーナー

PBC事業の売上高構成比

製品別



地域別



(※1) NN社年次報告(10-K、USGAAP)記載数値

(※2) EBITDA=営業利益+減価償却費



本件買収完了後のグローバル地産地消モデルの進化

本件による新たな生産拠点の獲得により、今後の各地域における需要を確実に捕捉することが可能になります



PBC事業のマネジメント



本件の実現により、業界に深い知見を有するPBC事業経営陣がチームに加わります

PBC事業統括者



Jeff Manzagol

Senior Vice President, PBC

- 2014年、NN社入社
- NN社入社前には2005年から2014年までKaydon社のベアリング事業におけるトップを務めた
- それ以前は、欧州ベアリング大手であるSKF社にて24年間勤務

本件買収後に設立するISC (Integration and Synergy Committee) における副委員長として、今後のPMIを強力に推進していく方針



3. 当社における本件の意義



本件買収の意義

本件実行により、継続的な利益ある成長と企業価値向上を促進していく所存です

ボール ビジネス

- 中計で目指している各取組との整合性(※3ページご参照)
 - 戦略的補完によるベストな組み合わせ
 - 海外や非ベアリングメーカーへの拡販機会の獲得
 - グローバル生産拠点網の拡充によるグローバル地産地消モデルの強化
- シナジー創出機会の獲得

ローラー ビジネス

- 従来までの事業と親和性の高い新規マーケットへの進出
- お客様での内製比率が高いことから、今後外注化による成長機会の獲得



本件による売上高構成イメージ(2016年度単純合算ベース)

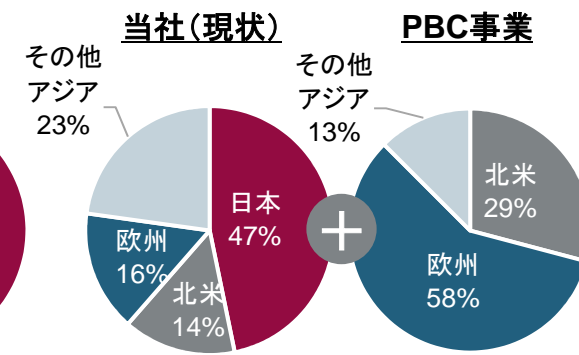
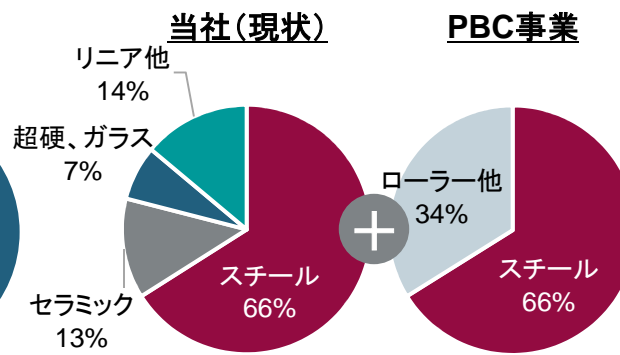
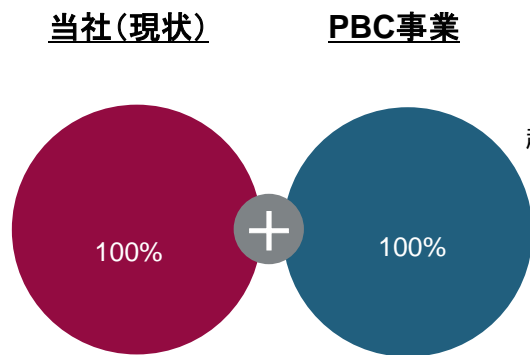
当社とPBC事業は相互に強い補完関係を有します

PBC事業による 売上高貢献

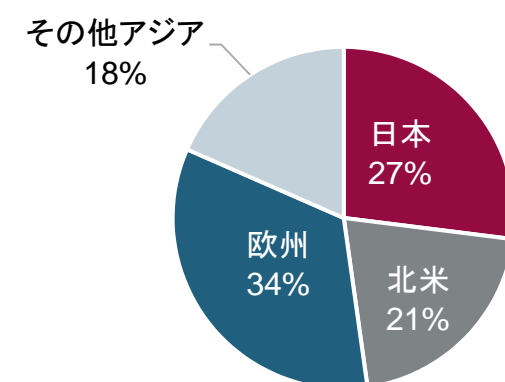
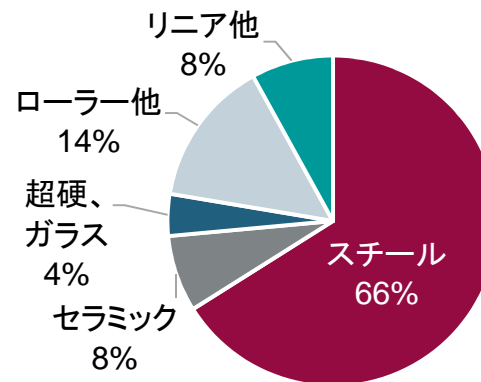
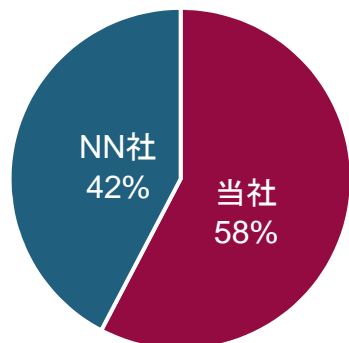
ボールの強化並びに ローラーの獲得

北米及び欧州地域 における補完

現状



プロフォーマ
(単純合算ベース)



(注)PBC数値の為替換算については当社2016年期中平均レート(1\$=108.84円)を使用しております。

Copyright © 2017 Tsubaki Nakashima Co, Ltd. All rights reserved.



過去3年間の業績推移

今後のPMIを通じて、PBC事業単体における収益性改善、シナジー創出等に取り組む方針です

PBC事業

	2014年度	2015年度	2016年度
売上高(百万ドル)	278	262	249
営業利益(百万ドル)	32	26	23
EBITDA(百万ドル)	44	38	35

(ご参考)当社

	2014年度	2015年度	2016年度
売上高(億円)	360	392	369
営業利益(億円)	52	71	69
EBITDA(億円)	69	89	85

(注)

- ・PBC事業の売上高、営業利益及びEBITDAはNN社年次報告書(10-K)のセグメント数値によります
- ・EBITDA=営業利益+減価償却費



潜在的なシナジー領域及び今後のスケジュール

強い補完関係に加えて、多くの潜在的なシナジー効果が見込まれます

シナジー 領域

- ✓ 購買
- ✓ 物流
- ✓ セールス／
マーケティング
- ✓ 生産
(技術・現場管理)
- ✓ 品質
- ✓ コーポレートコスト

本件完了後のPMI方針

- 2018年1Qまで
 - ISC(Integration and Synergy Committee)の設立
委員長:高宮CEO
副委員長:Manzagol SVP
 - ✓ オペレーションの継続性・安定性の確保
 - ✓ インテグレーションポリシーの立案
 - ✓ シナジー領域実現のための戦略立案
- 2018年2Q以降
 - 統合新組織の発足
 - ISCをドライバーにしたPDCAの開始



4. 本件の概要と財務影響



本件買収の概要

買収価格

- 375百万ドル(約425億円)(※1)
 - EV/EBITDA=9.5x (2016年度ベース)(※2)
- (ご参考) 当社のEV/EBITDA=12.6x (2016年度ベース)

買収スキーム

- 現金による株式の取得
- 米国で分社化されたPBC事業会社並びにその他地域を統括する欧州PBC事業会社の買収

買収資金

- 自己資金及び金融機関からの長期借入を充当

買収完了までのスケジュール

- 7月10日: 株式譲渡契約締結(本日)
- 2017年12月期第3四半期中(予定)(※3)

2017年度業績影響

- 東京証券取引所における開示規則に基づき適切に公表していく方針

(※1) キャッシュフリー・デットフリー企業価値ベース。為替レートは1\$=113.28円(7月7日時点)

(※2) Normalized EBITDAにより算定しております。

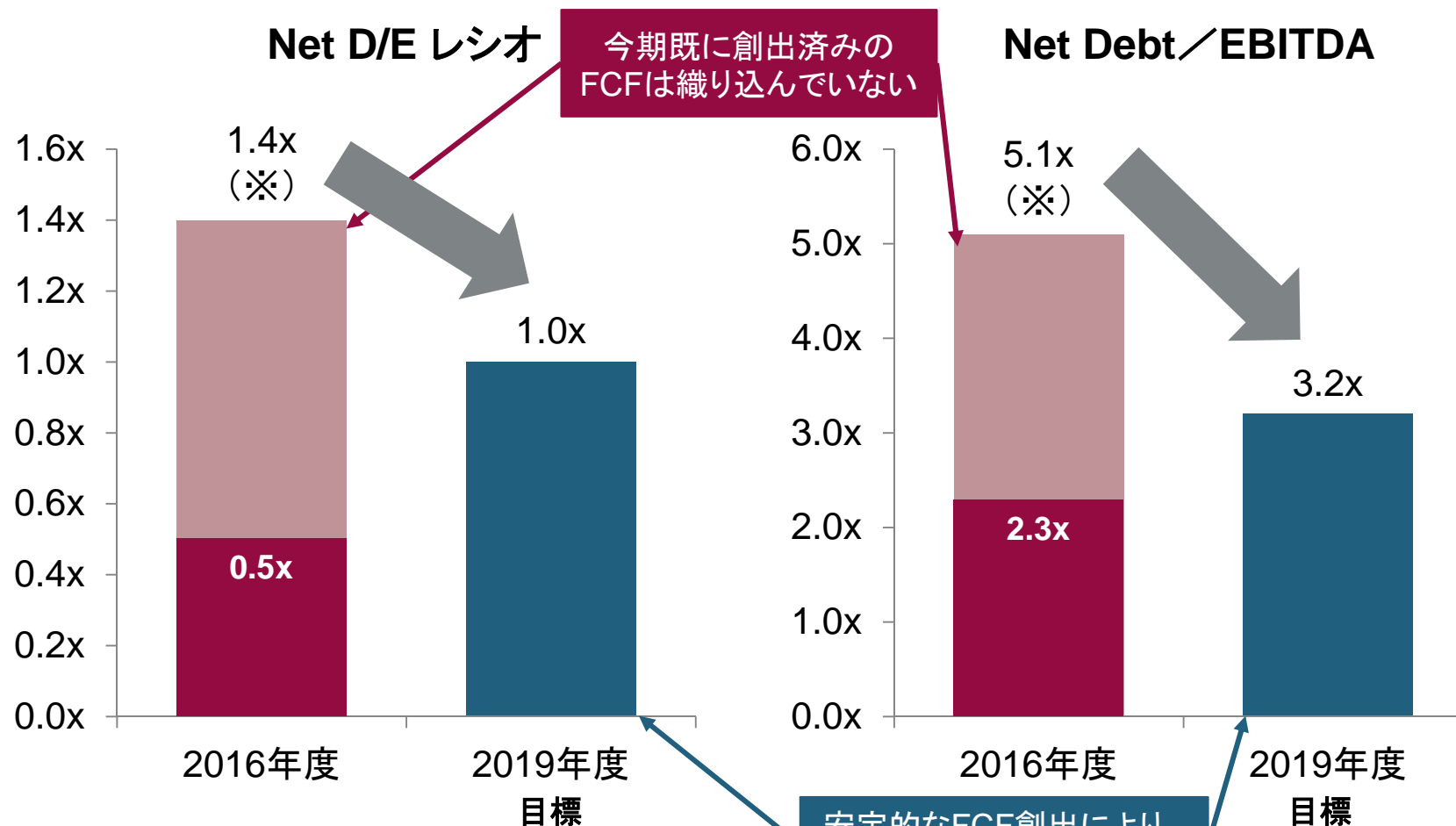
(※3) 規制当局による承認その他譲渡契約に定めるクロージング条件の充足が条件となります

Copyright © 2017 Tsubaki Nakashima Co., Ltd. All rights reserved.



安定的なFCF創出による堅固な財務基盤

手元キャッシュ及び長期での銀行借入の活用に加えて、安定的なFCFの創出を継続することにより、今後も堅固な財務基盤を維持していく方針です



(※)2016年実績数値に買収による借入の増加等を考慮した管理数値

免責事項



本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載(推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます)が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

本件取引に係る対象事業の情報についてはNN社のセグメント情報や未監査の管理会計データを含んでおり、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。また、本件取引の実行は、規制当局からの承認が得られることその他譲渡契約に定めるクローリング条件の充足を条件としており、一定の不確実性を含んでおります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。